

第2回 平成20年1月29日（火） 於：和歌山社会経済研究所

第3回 平成20年4月17日（木） 於：和歌山大学

第4回 平成20年7月8日（火） 於：和歌山大学

現地アンケート調査実施（平成20年8月～9月）

和歌山市内 ……担当：和歌山商工会議所

高野山地域 ……担当：和歌山社会経済研究所

白浜地域 ……担当：和歌山社会経済研究所

勝浦地域 ……担当：和歌山大学

第5回 平成20年11月18日（木） 於：和歌山大学

現地施設経営者聞き取り調査（平成20年2月～3月）

勝浦地域 ……担当：和歌山大学

白浜地域 ……担当：和歌山社会経済研究所

第6回 平成21年4月1日（水） 於：和歌山大学サテライトセミナー室

以上

「和歌山市中心市街地再生研究会」中間報告

和歌山市中心市街地再生研究会

主 査 足 立 基 浩

【和歌山大学経済学部 准教授】

郊外型店舗の立地の原則自由化（大規模小売店舗立地法）と中心市街地活性化法が成立してすでに10年が経過した。また、幾度かの法律の改正などもあったが、この間10万人以上の地方都市の実に80.6%が人口を減らした。こうした結果をふまえ、2006年からスタートした新しい制度の下では、郊外型の出店をやや規制し選択と集中の理念の中で選ばれた自治体が国からの助成を受けながら再生を目指す。

一方、和歌山市の中心市街地の現状はどうであろうか？

2007年夏に国の認定を受けてスタートした中心市街地計画は、フォルテ輪島の誘致、城フェスタ、けやき道路周辺でのイベント、オープンカフェの実施など、いくつかの策が実現されている。その結果、中心市街地の歩行者交通量もわずかだが上昇した（2008年9月）。

しかしながら、それらの政策が有機的に関連し効率的な再生を果たしているかというところ「発展途上」としての評価にとどまるであろう。

本研究会においては、和歌山市が実施している各種政策の総括を実施するとともに市民レベルで実施できる「身近な」活性化策について検討を行った。その結果、我々がたどり着いた基本的な方向性は「中心市街地の魅力再発見」ということになった。「魅力の再発

見」とは、いくぶん使い古された表現のように思われるが都市再生とは「リハビリ」の意味を含む。つまり、かつては存在したが今は失われかけている街の魅力の再発見、もしくは新しい魅力を発見しようという計画である。

今一度原点に立ち返り、和歌山の魅力を市民レベルで構築し、それを広める作業について、「センチメンタル・ジャーニー（愛着さがしの旅）」と名づけた。和歌山市ではすでに中心市街地の風景をWeb上で紹介する「風景ドットコム事業」や、各種まち歩きのウォーキングツアーなどを実施している。また、商工会議所も2006年よりセンチメンタル和歌山事業を実施しているが、それらを都市再生の名の下で再度整理し、制度化を行おうというものである。

詳細については、次節以降を参照されたい。

1. 研究メンバー

（主査）

足立 基浩 和歌山大学経済学部准教授

（研究員）

木下 雅夫 和歌山社会経済研究所総括研究部長

中山 健太 和歌山社会経済研究所研究部長

中平 匡俊 和歌山社会経済研究所主任研究員

鈴木 孝明 和歌山社会経済研究所主任研究員

小川 美弥子 和歌山社会経済研究所主任研究員

畑 光穂 和歌山商工会議所企画・街づくり支援室リーダー

大泉 英次 和歌山大学経済学部教授

辻本 勝久 和歌山大学経済学部准教授

山田 良治 和歌山大学観光学部教授

堀田 祐三子 和歌山大学観光学部准教授

（事務局）

高崎 典久 和歌山商工会議所

山本 敦子 和歌山大学経済学部助教

2. 研究会開催（全5回）

第1回研究会 平成20年9月8日

第2回研究会 平成20年10月23日

第3回研究会 平成20年12月11日

第4回研究会 平成21年1月22日

第5回研究会 平成21年2月26日